

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

日曜日の午後、ぼくは弟の大地としようぎをさした。大地は二年生で、しようぎをおぼえたのは、つい一か月前のことだ。ぼくは、手かげんをしてやるつもりでいた。

ところが、気がつくと、ぼくの王様は大地のこまにかこまれていた。

「王手。」

大地がうれしそうに言った。にげ道をさがしたが、どこにもない。ぼくは負けたのだ。

「今のは、わざと負けてやったんだよ。」

ぼくはそう言って、ばんの上のこまをぐしゃぐしゃにした。本当は、くやしくて顔が熱かった。

その夜、大地の部屋の前を通ると、中から小さな声が聞こえた。そつとのぞくと、大地がしようぎばんを前に、一人でこまをならべている。

「お兄ちゃんは、ここで角を動かして……。」

大地がならべていたのは、ぼくがいつも使うせめ方だった。ぼくがさすのを横で見、ずっとおぼえていたのだ。大地は、ぼくのように強くなりたくて、毎日こっそり練習していたのかもしれない。

ぼくは、昼間の自分がはずかしくなった。

次の日、ぼくは大地に声をかけた。

「もう一回やろう。今度は、本気でな。」

大地は目をかがやかせて、しようぎばんをかかえて走ってきた。

(この問題のための書き下ろし)

問一 ぼくは、はじめ、どんなつもりでしようぎをさしていましたか。「つもり」につづくように、本文から十字まで書きぬきましょう。

手
か
げ
ん
を
し
て
や
る

問二 「今のは、わざと負けてやったんだよ」と言ったときのぼくの気持ちとして、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 大地が強くなったので、うれしい。

イ 弟に負けたのがくやしく、それをかくしたい。

ウ しようぎにあきたので、早くやめたい。

イ

問三 「昼間の自分がはずかしくなった」とありますが、それはなぜですか。四十五字まで書きましょう。

大	お	と	自	た
地	ぼ	知	分	か
が	え	り	が	ら
ぼ	て	、	な	。
く	練	う	さ	
の	習	そ	け	
せ	し	を	な	
め	て	つ	く	
方	い	い	な	
を	た	た	っ	

問四 物語の最後で、ぼくの大地への気持ちはどう変わりましたか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 大地に勝てないので、今度は手かげんしてもらおうと思うようになった。

イ しようぎがきらいになり、もうやめようと思うようになった。

ウ 弟を下に見ていたが、一人のあい手として本気で向き合おうと思うようになった。

ウ

【小5】国語 文章問題 物語文 I 答えと解説

問一（二十五点） 答え：手かげんをしてやる

解説：一つ目のまとまりの最後の文から。弟を下に見ていたことが分かる。

問二（二十五点） 答え：イ

解説：すぐあとの「本当は、くやしくて顔が熱かった」から。「わざと」はうそだと分かる。ア・ウは本文に書いていない。

問三（二十五点） 答えの例：大地がぼくのせめ方をおぼえて練習していたと知り、うそをついた自分がなさけなくなったから。

解説：その夜の場面から。大地の練習を知ったことと、昼間の自分のふるまいの二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

- ①大地が、ぼくのせめ方をおぼえて一人で練習していたと知った
- ②わざと負けたとうそをつき、こまをぐしゃぐしゃにした（自分がなさけない）

問四（二十五点） 答え：ウ

解説：はじめは「手かげんをしてやるつもり」だったのが、最後は「今度は、本気でな」と言っている。ア・イは本文に合わない。